



決算説明会

2008年3月期

2008年5月8日

ミネベア株式会社

1. 業績の説明

2. 方針と戦略

業績の説明

取締役 専務執行役員 加藤木 洋治

連結業績

(百万円)	2007年3月期	2008年3月期	前年比 伸び率	2008年3月期計画 (2008年2月修正)	
	通期	通期		通期	達成率
売上高	331,022	334,431	+1.0%	335,000	99.8%
営業利益	26,265	30,762	+17.1%	31,500	97.7%
機械加工品	26,195	27,750	+5.9%	27,900	99.5%
電子機器	69	3,012	43.652倍	3,600	83.7%
経常利益	21,843	27,691	+26.8%	27,000	102.6%
税引前利益	19,523	25,254	+29.4%	24,500	103.1%
純利益	12,862	16,303	+26.8%	16,000	101.9%
一株当たり当期純利益(円)	32.23	40.86	+26.8%	40.10	101.9%

10年ぶりに最高純利益を更新
 営業利益は、前年比17%増
 機械加工品が好調、電子機器も大幅改善

為替レートの変動 07/3期 → 08/3期
 US\$ 116.91円 → 115.29円
 ユーロ 149.75円 → 162.18円
 タイバーツ 3.18円(3.15円) → 3.70円(3.39円)
 人民元 14.77円 → 15.40円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

四半期業績

前四半期比では季節性、為替の影響などで、利益改善が鈍化

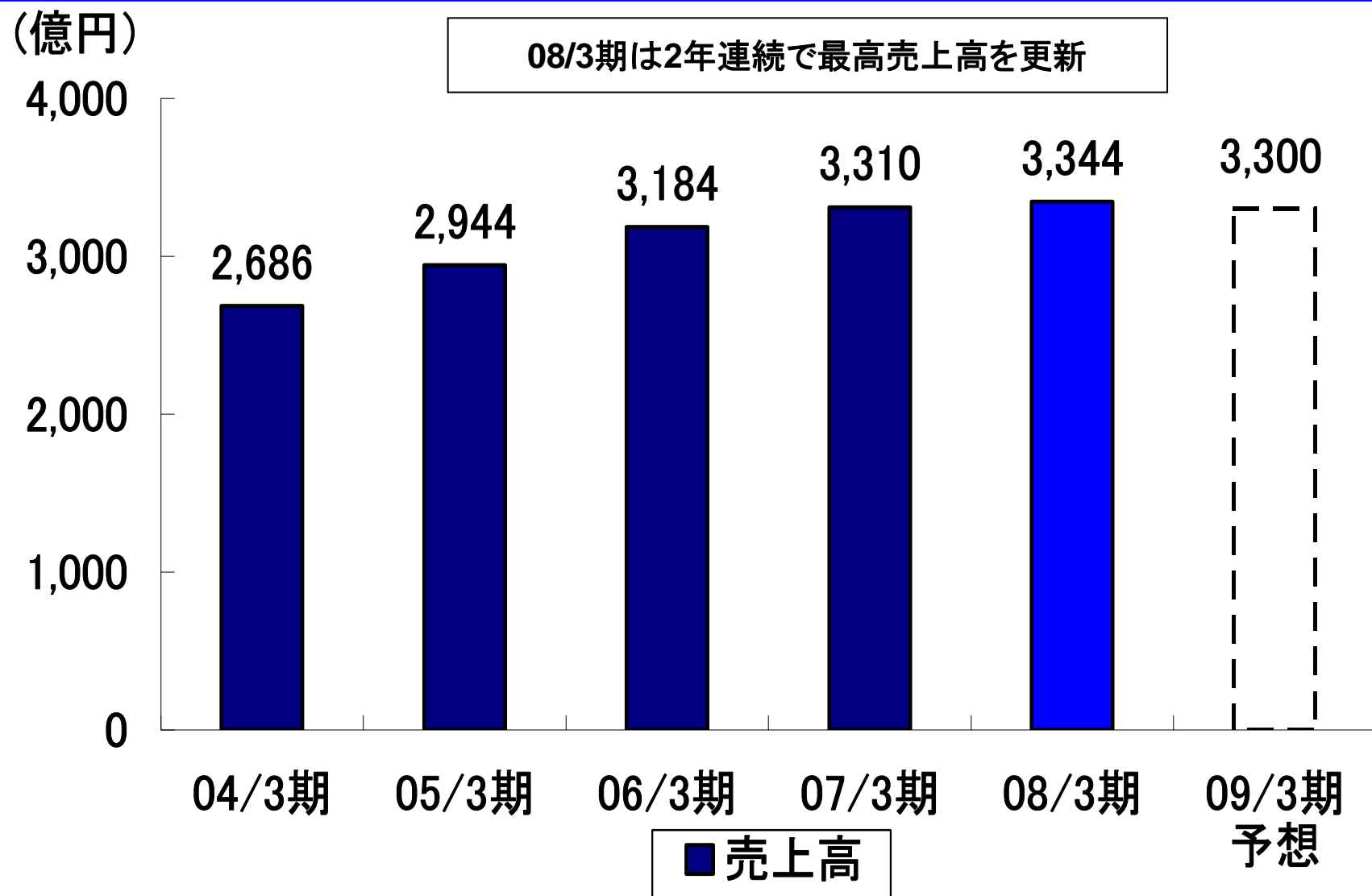
(百万円)	2007年3月期		2008年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	4Q	3Q	4Q	3Q		
売上高	83,692	85,142	81,042		-3.2%	-4.8%
営業利益	6,289	8,355	7,286		+15.9%	-12.8%
機械加工品	6,109	7,147	6,899		+12.9%	-3.5%
電子機器	178	1,208	387		2.174倍	-68.0%
経常利益	5,401	7,456	6,999		+29.6%	-6.1%
税引前利益	3,334	7,003	6,055		+81.6%	-13.5%
純利益	1,185	5,054	3,775		3.186倍	-25.3%
一株当たり 当期純利益(円)	2.97	12.67	9.46		3.186倍	-25.3%

為替レートの変動 3Q → 4Q

US\$ 113.45円 → 108.44円、ユーロ 163.92円 → 161.16円
 タイバーツ 3.64円(3.33円) → 3.60円(3.29円)、人民元 15.17円 → 15.06円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

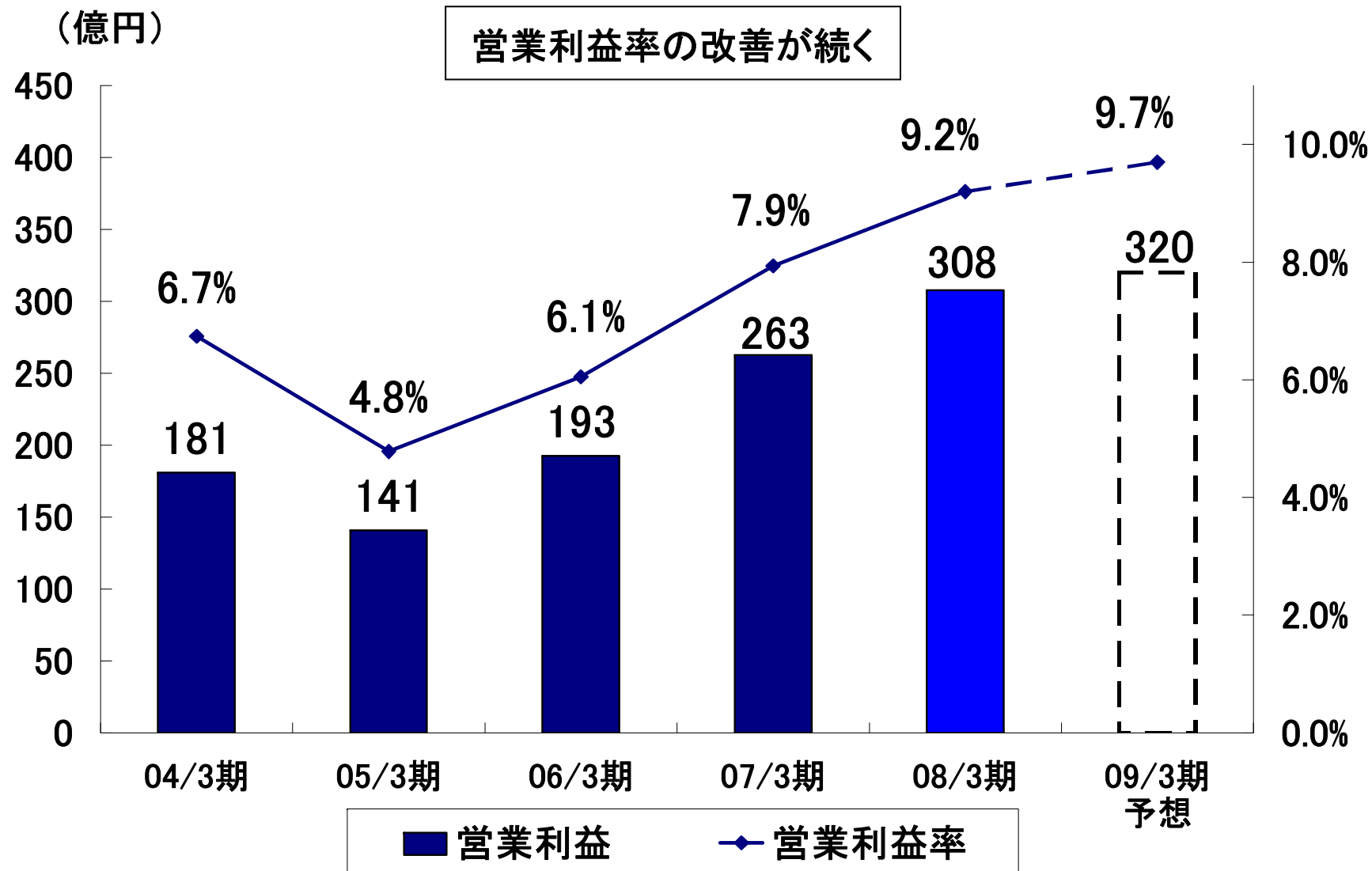
年推移

売上高

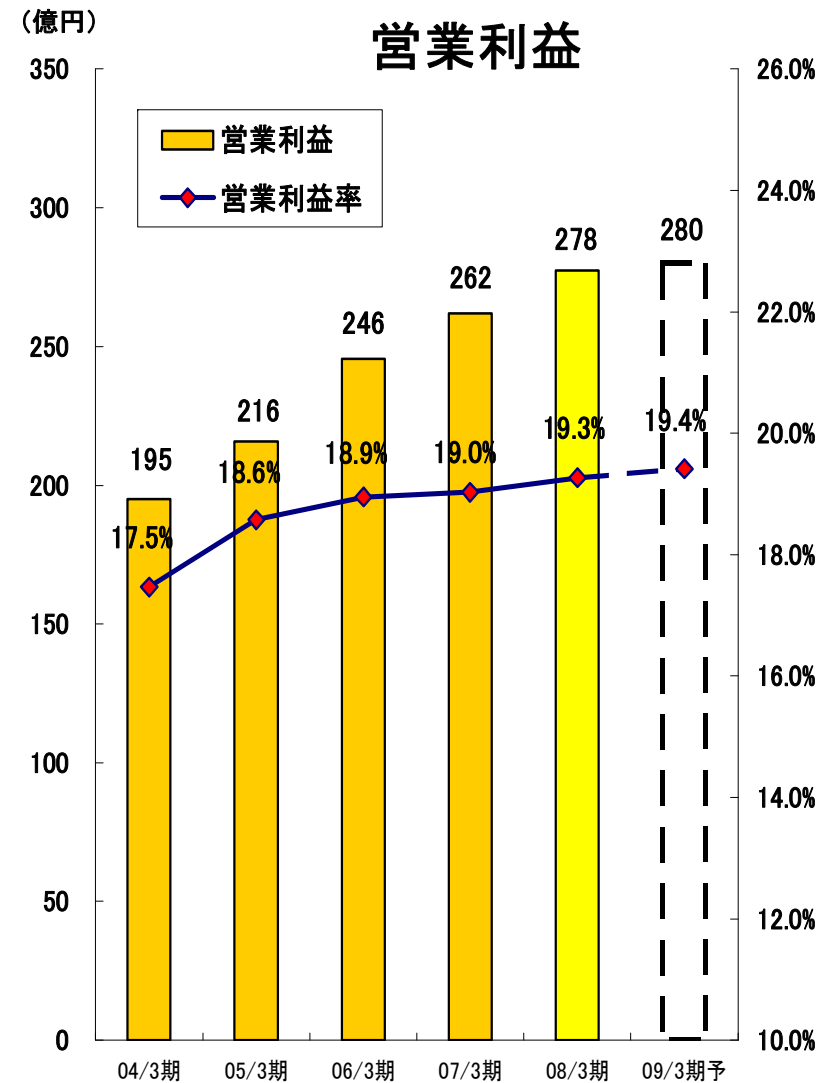
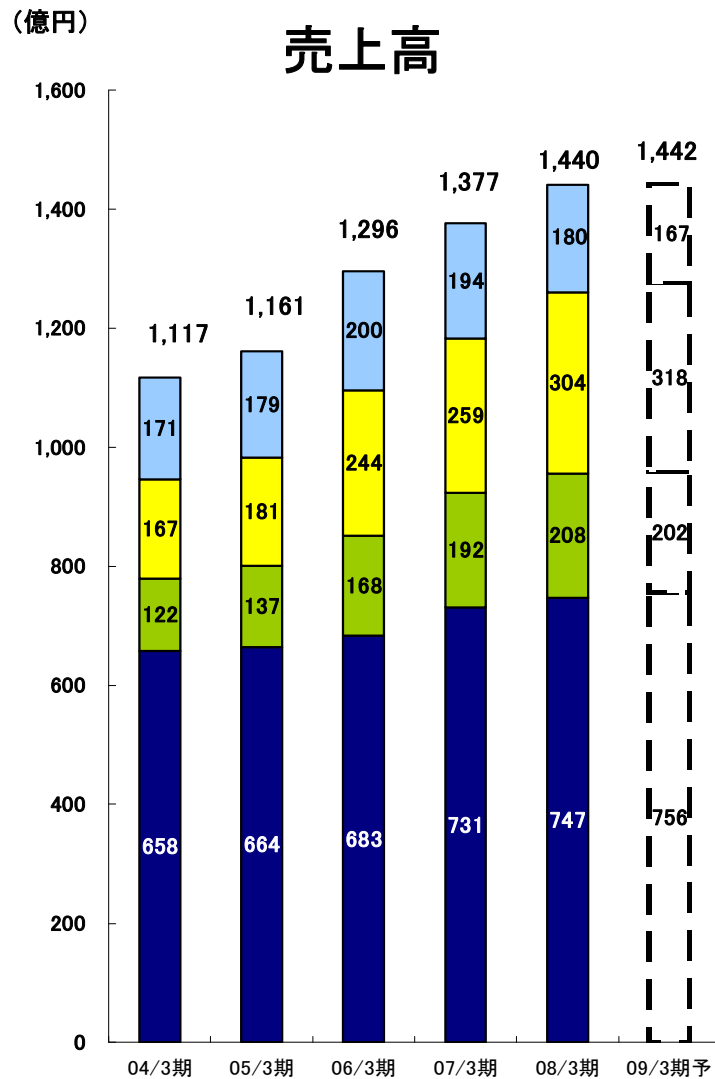


年推移

営業利益

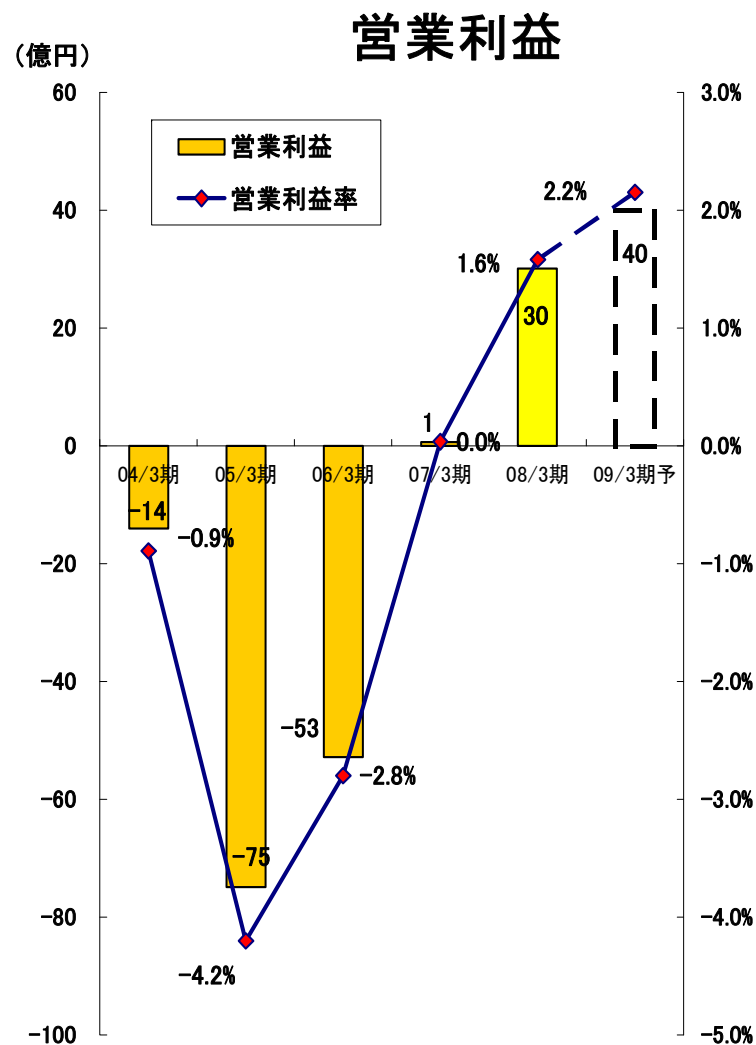
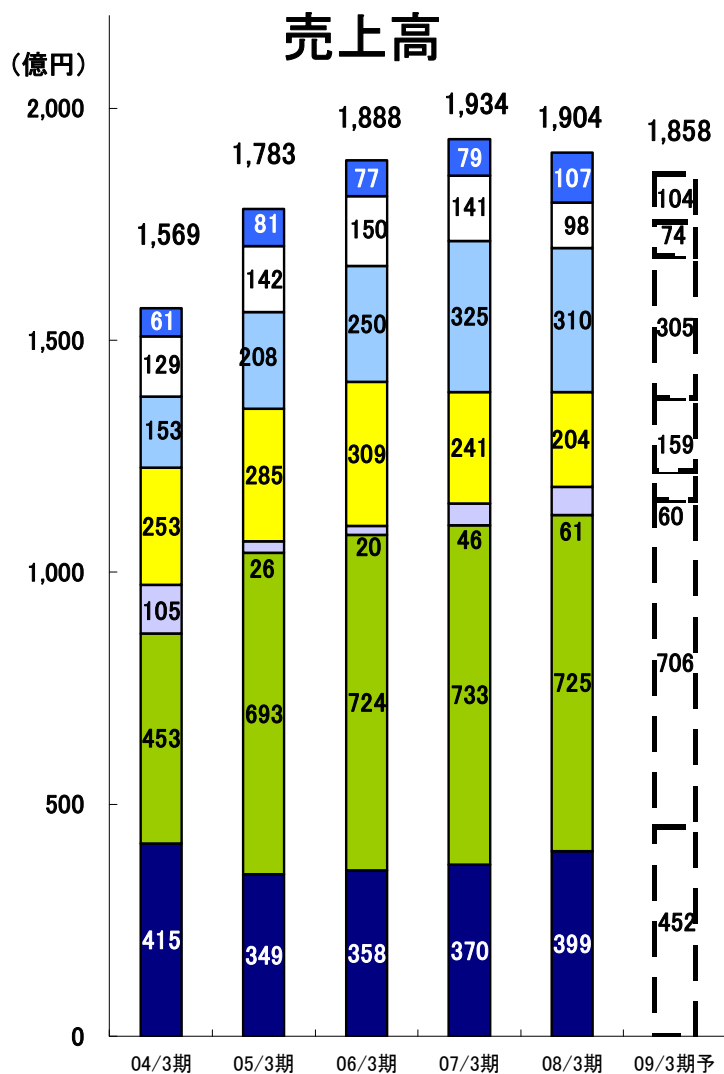


セグメント別 機械加工品事業 売上高・営業利益



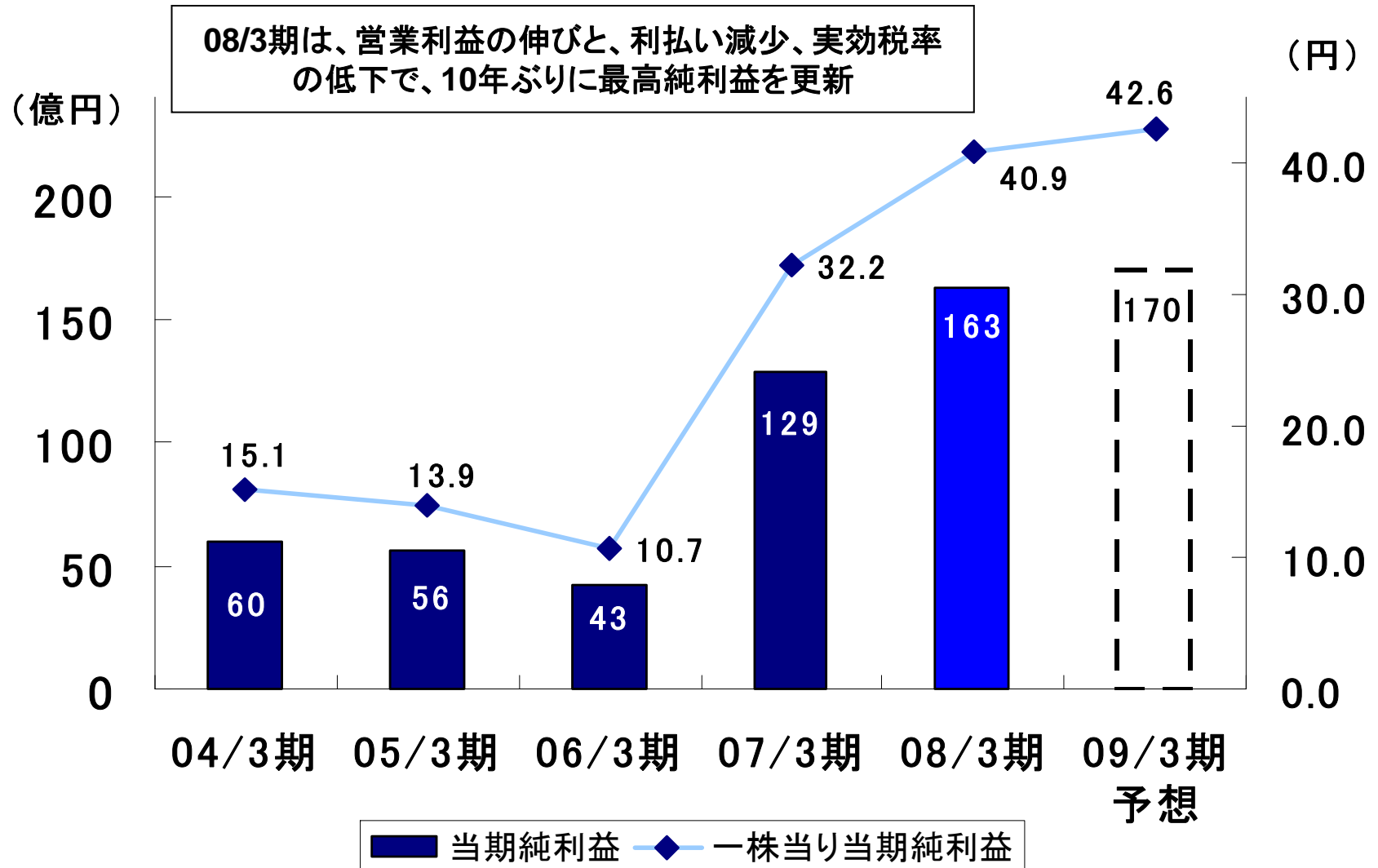
セグメント別

電子機器事業 売上高・営業利益



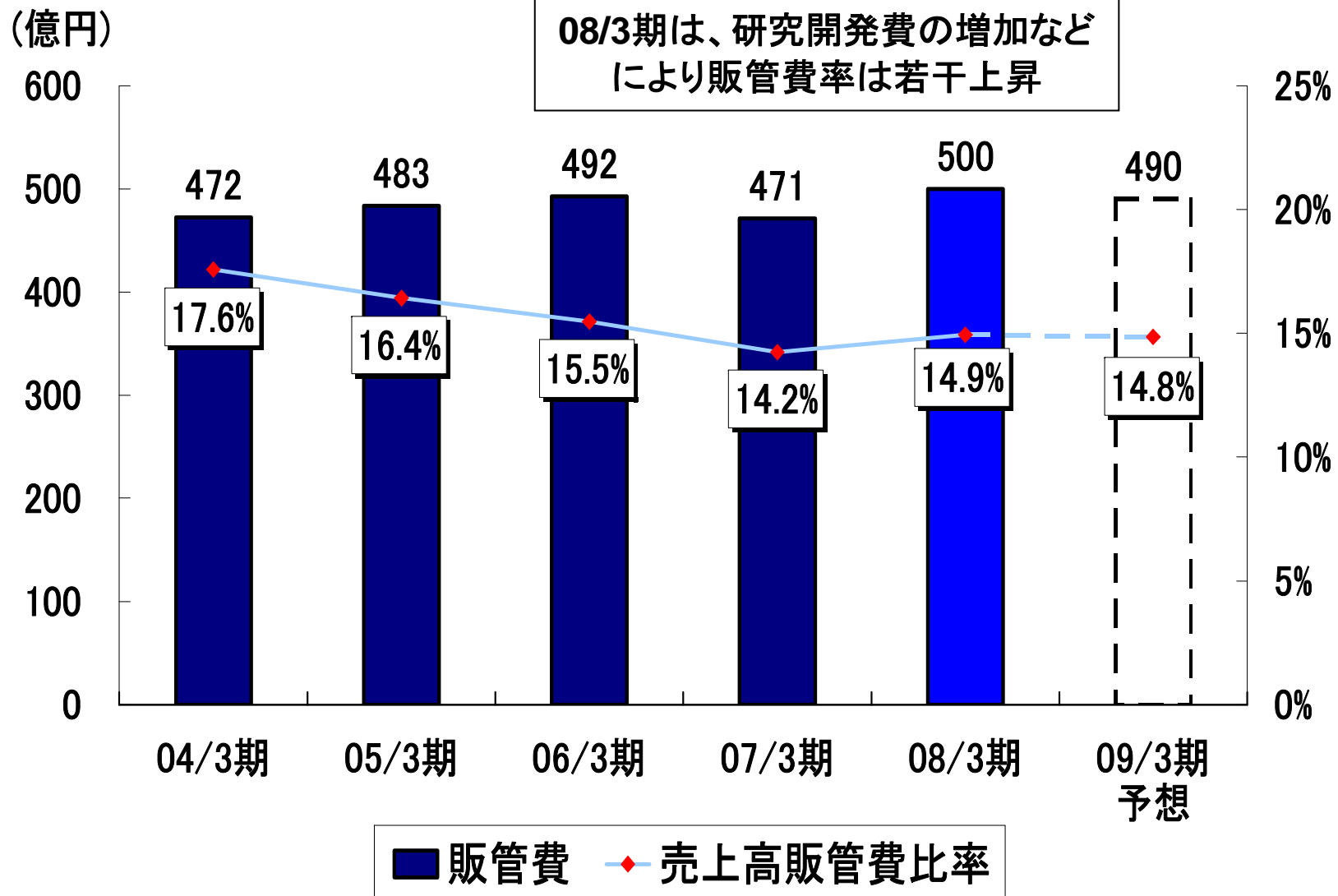
年推移

当期純利益



年推移

販管費



年推移

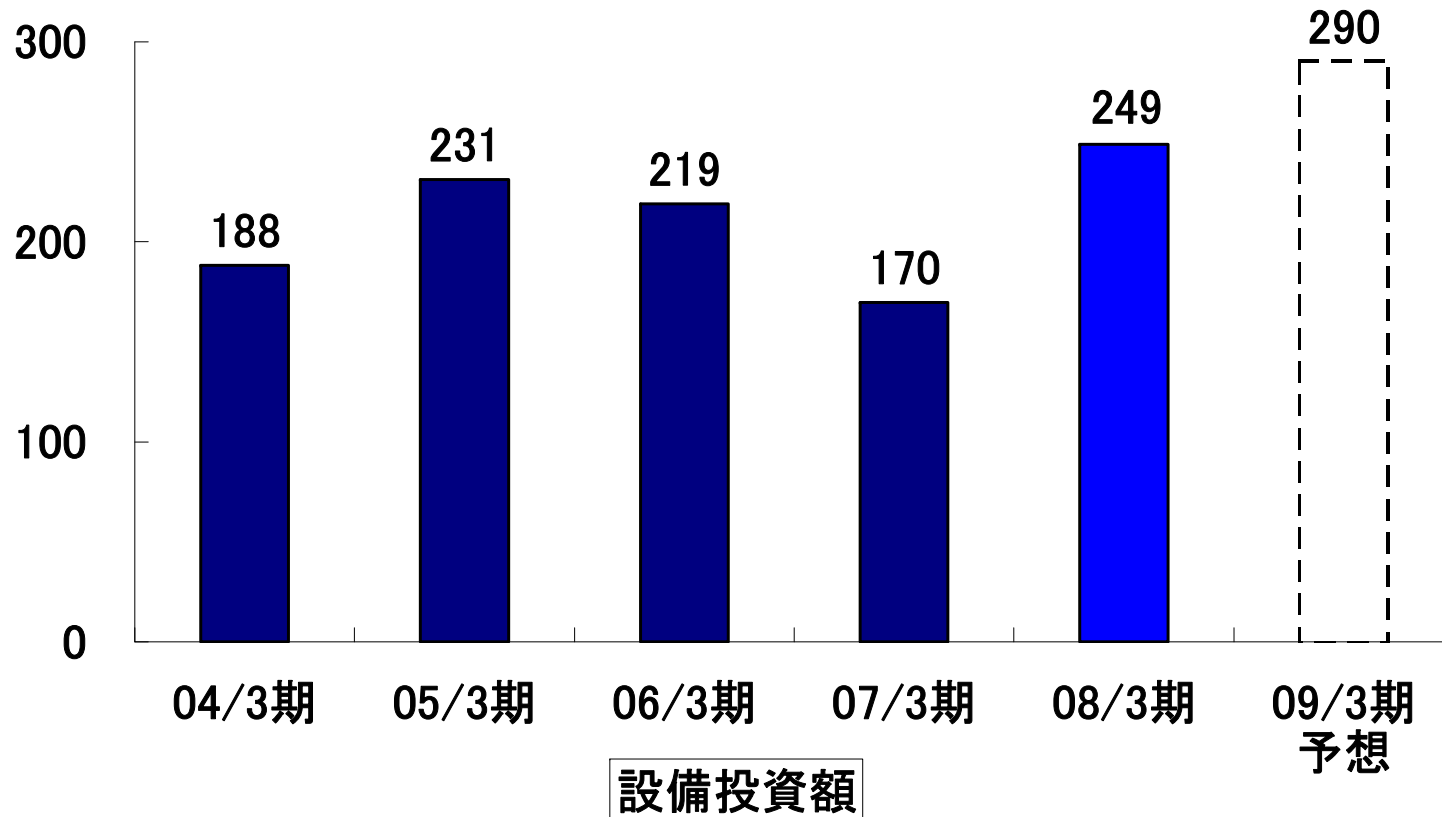
設備投資額

09/3期予想の主な投資計画

航空機部品新工場建設、増産設備

ボールベアリング 増産設備、更新設備

(億円)



連結業績予想

(百万円)	2008年3月期	2009年3月期予想			前年比
	通期	上半期	下半期	通期	伸び率
売上高	334,431	162,000	168,000	330,000	-1.3%
営業利益	30,762	15,400	16,600	32,000	+4.0%
機械加工品	27,750	13,700	14,300	28,000	+0.9%
電子機器	3,012	1,700	2,300	4,000	+32.8%
経常利益	27,691	14,100	15,400	29,500	+6.5%
税引前利益	25,254	13,500	15,000	28,500	+12.9%
純利益	16,303	8,100	8,900	17,000	+4.3%
一株当たり当期純利益(円)	40.86	20.30	22.31	42.61	+4.3%

為替レート 08/3期実績 → 09/3期予想

US\$ 115.29円 → 105.00円、ユーロ 162.18円 → 163.00円

タイバーツ 3.70円(3.39円) → 3.40円、人民元 15.40円 → 14.90円

但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

財務戦略

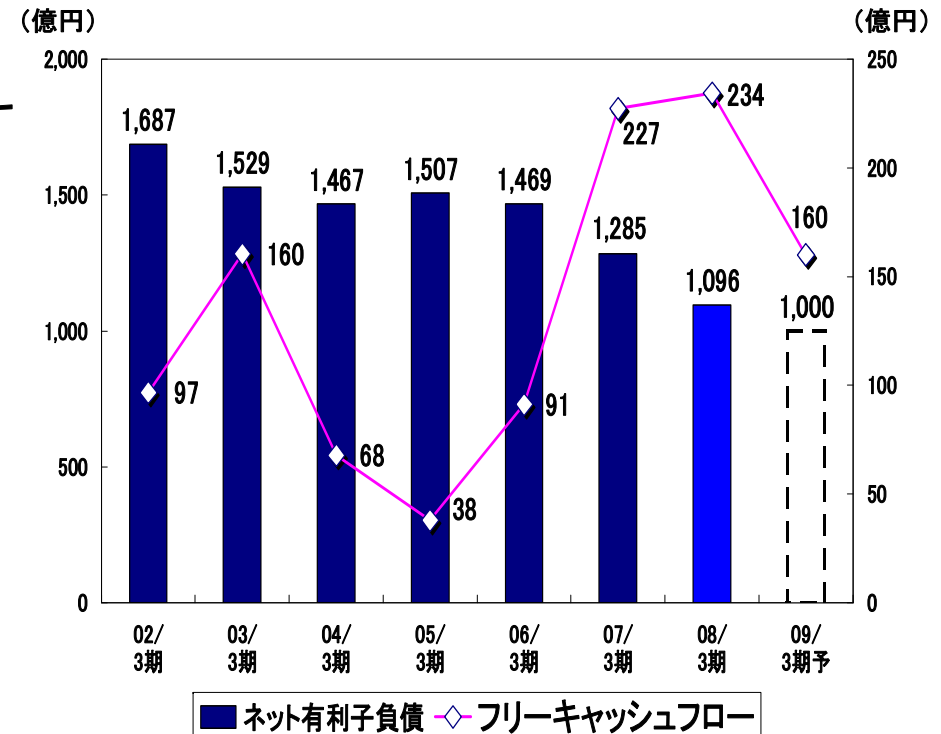
◆ ネット有利子負債削減

- ・ 08/3期は、189億円の削減
- ・ 09/3期は、96億円の削減により、中期目標1,000億円水準へ引下げを目指す

◆ 配当方針

- ・ 08/3期は、年10円配当
- ・ 09/3期予想は、中間配当5円、期末配当5円の年10円配当
- ・ 配当の基本方針：経営環境を総合的に勘案し、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元を図る

ネット有利子負債の中期目標＝
1,000億円を目指して削減を継続



ネット有利子負債：有利子負債合計－現預金
フリーキャッシュフロー：営業活動CF＋投資活動CF

方針と戦略

代表取締役 社長執行役員 山岸 孝行

成長へのシナリオ

イノベーション

新製品の開発

新市場の開拓

生産技術の革新

技術開発の強化

複合化技術

ボールベアリング・ロッドエンド・計測機器

電子デバイス・モーター

技術の複合化 社内での複合化
製品の複合化 社外との複合化

HMSM事業

中期事業計画

前進

2008.3期

進歩

2009.3期

飛躍

2010.3期

全事業の利益化

キーボード・情報モーター

HDDスピンドルモーター・スピーカー

ボールベアリング周辺

- 新製品展開→新しい市場を求めて
- 2億個生産の継続→市場の高成長率

ミニチュアベアリングの拡大



- マーケットシェアの確保
- 材料費高騰への対応力強化

ピボットアッセンブリー



新たな市場と
生産技術の革新

医療器市場への強化策

- ヨーロッパ市場の開拓
- 歯科医療器から医療器全般へ

生産技術の革新

- 新しいコンセプトの工場
- ミニチュアベアリング専用機

航空機部品事業

- 全売上高比 9%→11%
- 5年間の成長率45%(全社成長率25%)

航空機部品成長の軌跡



新たな成長への軌道

スフェリカル&ロッドエンド

- 高付加価値化を目指したメカパーツ
- タイ工場の設備増強

- カリフォルニア工場の増築
- ローラーベアリング用設備の増強
- 中径サイズベアリングの増産

ボール&ローラーベアリング



ファスナー

- 事業の強化→3年後の倍増目指す
- ロッドエンド事業部との統合効果
- 新製品導入→民間機用ファスナー

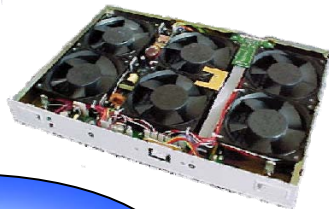
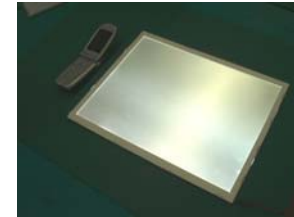
新たな挑戦 <可能性を求めて>

～ 光デバイス ～ センサー ～ エレクトロニクス ～

技術への挑戦

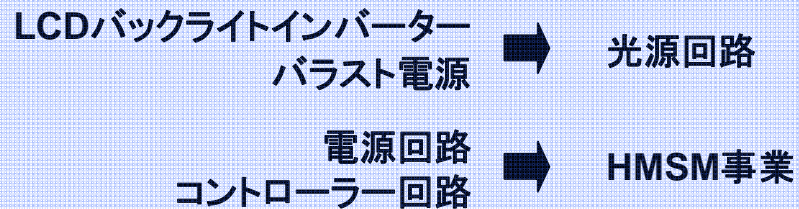
LEDバックライト

- サイズ・形状の範囲拡大
- アプリケーションの範囲拡大
- 部品レベルの開発強化・社外との複合化



複合化への挑戦

エレクトロニクス



- センサー事業での拡大
- 車載用・ゲーム機に次ぐ市場開拓
→医療・介護関連市場

市場への挑戦

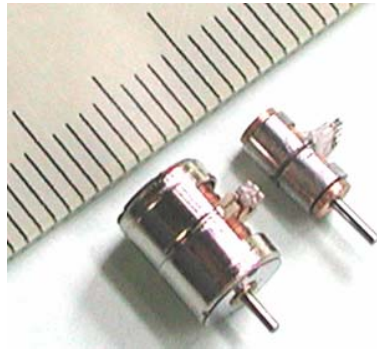
計測機器



モーター事業 <次の主役の座へ>

事業の再構築

- 再構築はほぼ終了した
- 積み残したHDDスピンドルモーターの改善



モーター事業の次への課題

- ファンモーターがモーター事業を牽引→増産体制完了
- ステッピングモーターは新製品と新市場へ→開発技術
- マグネットの技術開発強化→新たな高性能モーターへ
- 車載用製品の拡大→DCブラシモーターとレゾルバ
- DCブラシレスモーター→次世代での事業の中心



更なる構造改革

成長へ向けたより強固な組織体制

精密モーター事業部集約(2008年4月)

浜松工場

集約

大森 拠点

軽井沢拠点

飯田 拠点

- 車載用ロータリーコンポーネンツ・DCブラシレスモーター 拡大へ向け
- 技術・技能の集約・客先に隣接する東海地区拠点の選択

航空機部品事業の統合(2008年4月)

ロッドエンド・ファスナー事業部

統合

ロッドエンド事業部

ファスナー事業部

- 航空機部品事業拡大へ向け顧客情報・経営資源の共有

計測機器技術部門集約(2008年4月)

藤沢工場

集約

軽井沢技術部門

藤沢技術部門

- センサー技術の開発強化と計測機器事業拡大へ

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。